

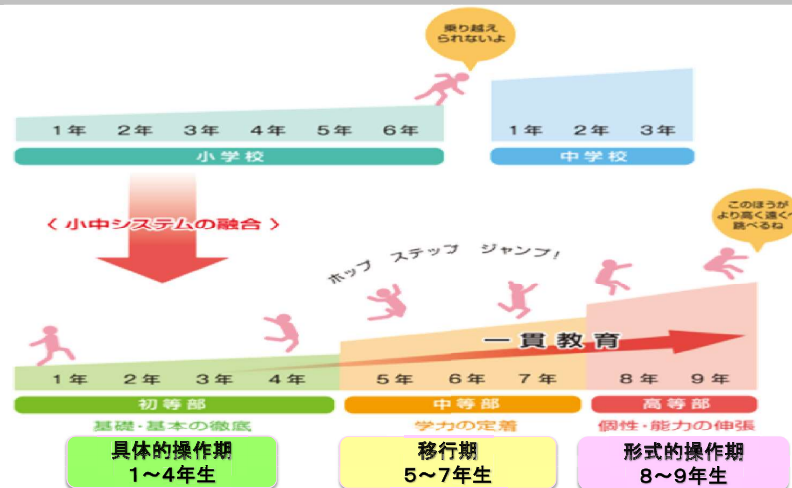
義務教育9年間で資質・能力を育成するための教育課程の再構築に関する研究開発
 (1) 義務教育9年間で育てるべき資質・能力の検討と改善
 (2) 発達の段階に応じた各教科における学習の目標と内容の検討及び再構築



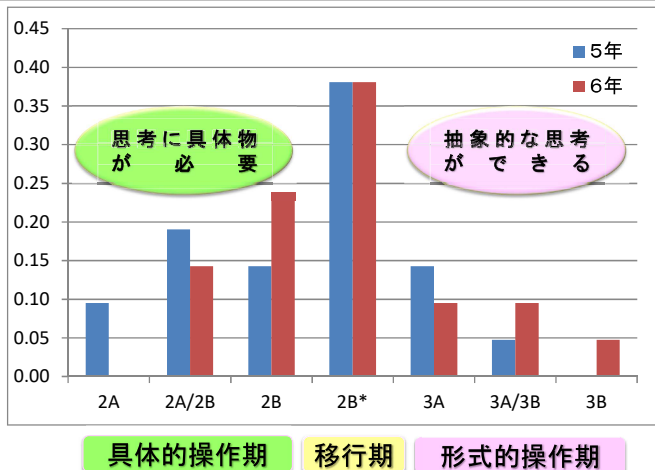
京都教育大学附属京都小中学校
 ○教務主任 野ヶ山康弘
 ○研究主任 河合晋司



本校の「4-3-2制」のイメージ(認知的発達を根拠としたもの)



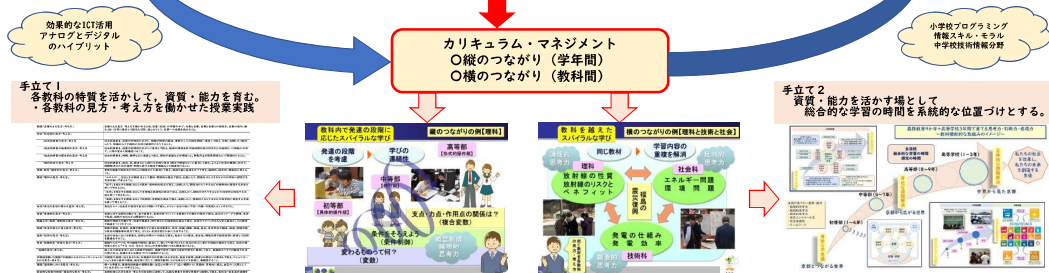
生徒の発達の段階(同一集団を対象と経年調査)



育てたい生徒像
 ・自ら学び、自ら考え、自律的に行動できる生徒
 ・様々な考えや文化を受け入れ、他と共生し、協調して行動できる生徒
 ・自他の個性を生かしつつ、目的を達成できるように自ら実践できる生徒

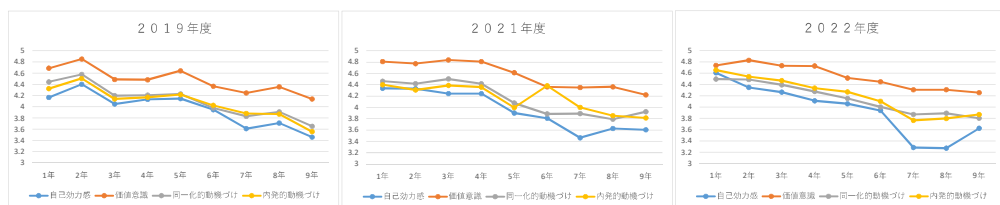
リーダーシップ チームワーク
 社会参画性 自己コントロール力
 批判的思考力 創造的思考力
 論理的思考力 コミュニケーション力

義務教育9年間で資質・能力を育成するための教育課程の再構築に関する研究開発



アンケート結果(2019・2021・2022調査)

①主体的な学びに関わる指標の年度ごとの学年比較



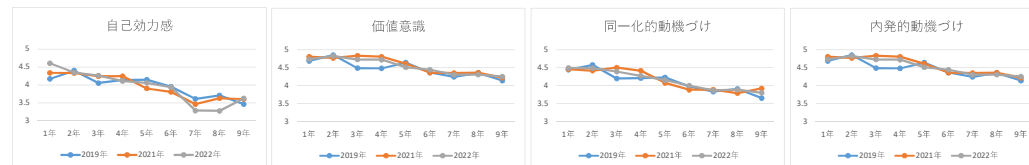
○年度に関係なく学年が上がるにしたがって各指標の値が下がっていく傾向
⇒これは一般的に言われる「ませてる」ためではないかと考えられる。

○2019年度から次第に傾斜が緩やか&全体的な指標の値が高くなっている
⇒主体的な学びの指標が高まる傾向にあり、本校の研究の成果が示されているものと考えられる。
コロナ禍で生徒の学びが危惧される中、本校の取り組みの中ではそのような心配は見られない。



アンケート結果(2019・2021・2022調査)

②主体的な学びに関わる指標ごとの学年比較



○価値意識、同一化動機づけ、内発的動機づけ⇒年度ごとの傾向に差異はなく、高い値を維持。
学年ごとの急激な変化も見られない。

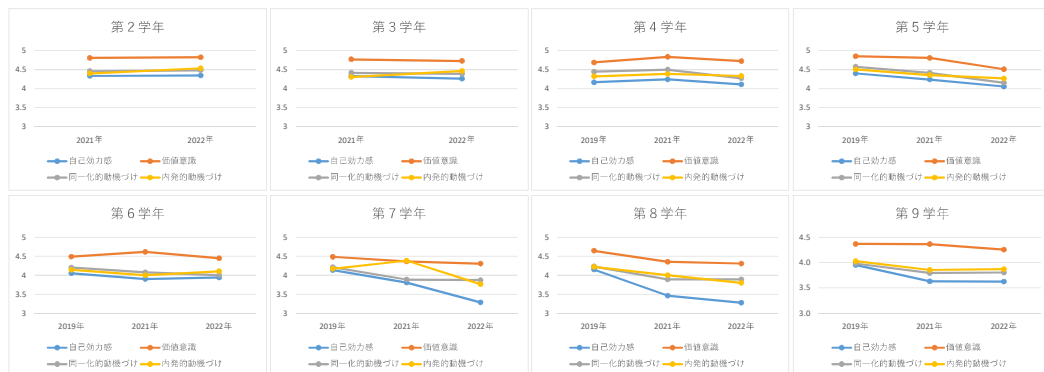
○自己効力感⇒他の3項目よりも低い値。

学習や活動に対する生徒自身の振り返りを大切に行っている。
⇒「自分ももっとできるはず」「思ったよりうまくできなかった」など、生徒自身のメタ認知がしっかりと行われている裏返しではないかと考えられる。
第6学年から第7学年においてどの年度でも値が急激に下がっている。
⇒第7学年より定期テストが始まり、その先の入試が生徒の視界に入ってくることから、さらに値の低下が見られるのではないかと考えられる。



アンケート結果(2019・2021・2022調査)

③主体的な学びに関わる指標ごとの学年ごとの経年変化



○第7学年⇒2022年度の自己効力感と内発的動機づけの値が急激に低下。
教員側の指導が大きく影響していると考えられる。



本研究を通して再認識したこと

教科・領域	新たなカリキュラムの可能性(柱となる縦【学年間】・横【教科間】の例)
国語	縦: 発達の段階を考慮した短詩系文学を柱とした表現力を育成する系統的なカリキュラム 横: 音楽や図工・美術との学習内容(物語文)の連携
算数・数学	縦: 小学校6年間と中学校3年間の緩やかな接続を考慮した系統的なカリキュラム 横: 理科・社会との学習内容(資料の活用)の連携
社会	縦: 歴史分野と地理分野における「入門」「探究」によるスパイラルなカリキュラム 横: 理科・技術との学習内容(今日的課題)の連携
理科	縦: 発達の段階を考慮した思考力・判断力を育成するカリキュラム
英語	縦: 義務教育9か年の発達の段階を考慮したコミュニケーション力の系統的なカリキュラム
音楽	横: 国語・小学校技術(プログラミング)の学習内容(創造的活動)の連携
図画工作・美術	横: 国語の学習内容(創造的活動)の連携
体育・保健体育	縦: 身体的発達を考慮したスパイラルなカリキュラム
技術	縦: 小学校プログラミング学習と中学校情報分野を繋ぐ系統的なカリキュラム
家庭	縦: 小学校低学年における食育を柱とした系統的なカリキュラム
生活	横: 小学校2年生活と3年の理科・社会・技術・家庭の緩やかな接続を考慮したカリキュラム
総合的な学習	横: STEAM教育の視点を取り入れた資質・能力活かす場としてのスパイラルな課題設定

縦のつながり

学年の枠を取り払う

横のつながり

教科の枠を取り払う



本研究を通して再認識したこと・得たこと

- 各学年で学ぶべき内容は何か
- 各教科で育てたい資質・能力は何か
- 各教科の本質とは何か

子どもたちの育ち

- 各教科・学年間の境目をなくしてこと
- 教員間の共通理解を図り、深めること

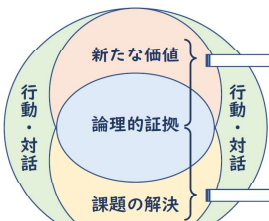
具体的な各教科の取組みの例

技術科・家庭科
社会科
理科
英語



技術科（情報の分野）

資質・能力：創造的思考



「カリキュラム・マネジメントの視点（横のつながり）」
プログラミング的思考の学習内容を技術科の資質・能力で整理すると・・・

学習内容（教材）

学習の目標

3年生：ロボホン（ロボリック）

- 5年 国語（創造的思考）
敬語の使い方を考えよう
- 5年 算数（論理的思考）
正三角形をプログラムを使ってかこう

ものづくりのよさに触れる

4年生：korobo（スクラッチ）

- 6年 理科（論理的思考）
電気を無駄なく使うための工夫を考えよう

もの仕組みを探る

5・6年生：コードモンキー（Javascript）

- 3年 音楽（創造的思考）
動物が楽しく踊るリズムループをつくらう

生活に役立つ仕組みを考える

7・8・9年：情報技術

育てたい生徒像
常識や固定観念にとらわれず、新たな発想や着想を尊重し、新しいもの見方や考えを導き出す生徒

小学校技術科（情報分野）のカリキュラムマネジメントの視点

第3学年

単元	単元	学習内容	目標
1	技術科はじめよう		技術科の学習内容や、ロボット・コンピュータを使った学習の面白さや、ICTの活用について知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
2		ロボホンとロボリック	ロボホンとロボリックの仕組みや、ロボリックの動作をプログラミングで表現し、動作させることができる。(注)
3	フォームブックの活用		フォームブックの活用について知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
4	ロボットの使い方		ロボットの使い方について知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
5	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
6	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
7	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
8	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
9	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
10	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
11	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
12	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
13	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
14	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
15	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
16	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)

第4学年

単元	単元	学習内容	目標
1	技術科はじめよう		技術科の学習内容や、ロボット・コンピュータを使った学習の面白さや、ICTの活用について知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
2			
3			
4	タイマーのプログラミング		タイマーのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
5	タイマーのプログラミング		タイマーのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
6	タイマーのプログラミング		タイマーのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
7	タイマーのプログラミング		タイマーのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
8	タイマーのプログラミング		タイマーのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
9	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
10	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
11	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
12	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
13	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
14	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
15	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
16	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)
17	ロボットのプログラミング		ロボットのプログラミングについて知り、学習への意欲をもつことができる。(注)

小学校技術科（情報分野）の第3・4学年のカリキュラムの例

学年	住教育の領域	【人と住まいの空間と構成】	【住まいと環境】	【住まいと社会】
		家族の生活やつくり、暮らし、住まいと生活や文化との関係、住まいの役割や家族の生活行為に対応した空間や構成を学習する。	住まいの安全や防災、また清潔で健康的な住まい方を知り、自然環境の住まいへの生かし方や環境と共存した住まい方や工夫について学習する。	自分らしい住まい方の工夫や、まちづくりの取り組みなど、住まいと社会のつながりを学習する。
1・2年生	(生活) しぶんでできることしよう いえのひとといっしょしよう	(道徳) 安全に気を付ける	(道徳) 身の回りを整える ・安全に気を付ける	(生活) まちたんけん大はっけん ・もつとまちなげん
3・4年生	(家庭科) 私の仕事と生活時間 (社会) 県内の伝統や文化、先人の働き	(道徳) 安全に気を付ける	(家庭科) 物をまかしてほみやすく① ・夏をすずしくさわやかに① ・冬を明るくあたたかく① (理科) 風やごみの動き (理科) 太陽と地面の様子、天気の様子 ・空気と水の性質、音、水、空気と温度	(社会) 身近な地域や市区町村の様子 ・県内の特色ある地域の様子
5・6年生	(家庭科) 私の生活大発見! ・気持ちつながる家族の時間 ・見つめてみよう 生活時間 (図画工作) わたしのお気に入りの場所 ・わたしのツリーハウスをつくる	(理科) 天気の変化 ・流れる水の動きと土地の変化	(家庭科) 物をまかしてほみやすく② ・夏をすずしくさわやかに② ・冬を明るくあたたかく② (図画工作) 流れる風をつまみまて	(家庭科) あなたは家庭や地域の宝物 (社会) 我が国の国土の自然と国民生活
7・8・9年生	(家庭科) これからの家族とわたし ・住まいのほたるき・現代の住まい方 ・気候風土に合わせた住まい ・住まいに必要な空間・生活行為に必要な空間 ・空間のさまざまな使い方・伝統的な住まい (社会) 世界各地の人々の生活と環境 ・世界の様々な地域・日本の諸地域 ・日本の地域的特色と地域区	(家庭科) 災害への備え ・家庭内事故への備え ・防火対策 ・防犯対策 (理科) 大地の変化 ・気象のしくみと天気の変化	(家庭科) 自然と共にある伝統的な住まい ・空気環境の安全対策 (保健体育) 健康な生活と病気の子供 ・健康と環境 (家庭科) 持続可能な住生活をめざして	(家庭科) 家庭生活と地域のかかわり ・誰もが住みやすい環境をめざして

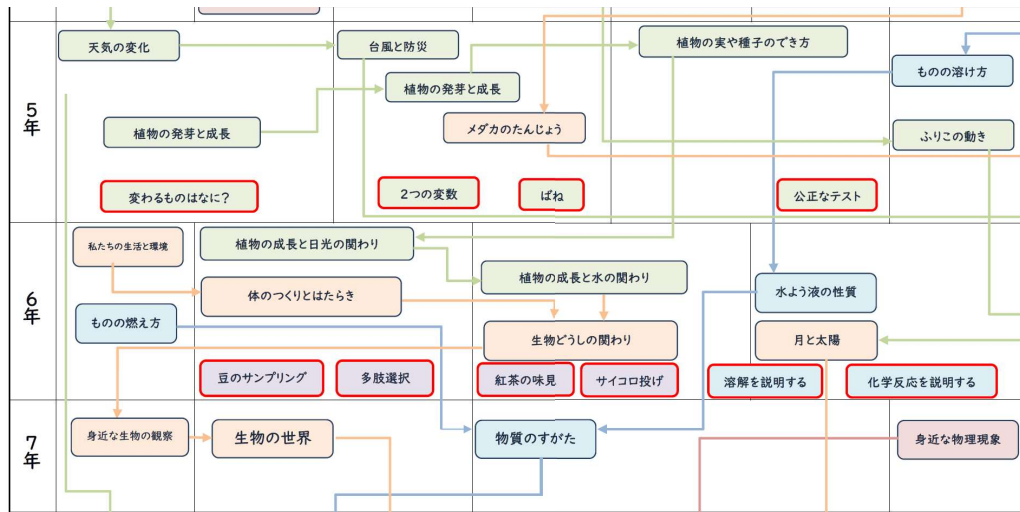
家庭科・住生活分野における「見方・考え方」に着目した学び(思考力)の系統図

	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
4月	身近な地域や市区町村の様子	都道府県の様子	我が国の国土の様子と国民生活	わたしたちの願いを実現する政治	世界と日本の地域構成 各地の人々の生活と環境	日本の地域的特色と地域	近代の世界と日本
5月		人々の健康や生活環境を支える事業				日本の諸地域	近代の日本と世界
6月	人々の健康や生活環境を支える事業		我が国の農業や水産業における食料生産	歴史入門	世界の諸地域		私たちと現代社会
7月					古代までの日本②		
8月							
9月	自然災害から人々を守る活動	自然災害から人々を守る活動	我が国の工業生産	歴史入門	中世の日本	日本の近代化 ①近代の日本と世界	個人の尊重と日本国憲法
10月	県内の伝統や文化、先人の働き	県内の伝統や文化、先人の働き	我が国の産業と情報との関わりについて		世界の様々な地域 世界の諸地域		国民主義と日本の政治
11月				グローバル化する世界と日本の役割		地域の在り方	私たちの生活と経済
12月							
1月	県内の特色ある地域の様子	県内の特色ある地域の様子	我が国の国土の自然と国民生活	古代の日本①	地域調査の手法	日本の近代化 ②二度の世界大戦	私たちと国際社会
2月					近世の日本④		私たちの課題
3月							

※ 緑：地理分野 青：歴史分野 黄：公民分野
→ 前期の単元・単元(歴史は記述学習)
6年生～9年生までを通して、主観的歴史を定期的に含む歴史を統括

歴史人物スピーチコンテスト

社会科におけるカリキュラムの整理・統合



理科におけるカリキュラムの構造図

論理的思考の方法(概念)	主な特徴	
順番をつける	因果関係	ある事象の原因として結果の関係に気付く能力
	順序づけ	一定の順序に従って、1つの系列にまとめる能力
	空間認知	目の前にある事物を他の視点でとらえることができる能力
	条件設定	適切に条件を設定して、現象の原因を明らかにしようとする能力
分類する	対象から特定の属性を抽出し、その共通点や相違点に着目し、まとめる能力	
比較する	比と比例性	伴って変わる2つの量の間の比が一定であるという関係を用いて思考する能力
	補償	伴って変わる2つの量の間の和や積が一定であるという関係を用いて思考する能力
理由づける	蓋然性	事象の実現性や知識の確実性の度合い、確からしさを判断する能力
	相関性	1対1の対応のだけの因果関係ではなく、複数のサンプルから得られた結果の全体的な傾向を把握して結論付けようとする能力
図式化する	モデル化	事象を抽象化して、図に表したり、その図を使って考えを進めたりする能力
関係づける		4つの独立な変数、a、b、c、dの間に、 $a \times b = c \times d$ という関係があるとき、その関係を用いて思考する能力

理科における論理的思考の方法(概念)の一覧表

英語科

「カリキュラム・マネジメントの視点」
英語科で育てたい資質・能力「コミュニケーション力」で整理すると・・・

本校のこれまでのモジュール学習で得られた利点と欠点

利点	欠点
○短時間による繰り返し学習（反復学習）により、学習意欲の低下を防ぎ、意欲的に授業に取り組むことができる。 ○反復することによってより記憶がしっかりとし、新しいことを覚えやすくなる。	○授業回数増加による授業・教材準備への教員の負担が増える。 ○コミュニケーション活動の時間を十分に確保することができない。

資質・能力「コミュニケーション力」を継続的に、スパイラルに育成するために本校の環境で何ができるのか

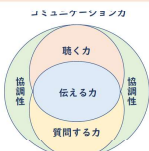
育てたい資質・能力「コミュニケーション力」の視点で考えると、コミュニケーションの時間を十分に確保する必要がある。

各学年で英語科の1単位の授業時間を確保 → コミュニケーション力の育成
各学年授業時間（35時間）

モジュール学習の利点を活かして、興味関心、学習意欲を高める。

モジュール学習の時間を確保 → 興味関心、学習意欲を高める
ただし、授業準備等の教員負担の改善が必要 → 各学年モジュール（35時間）

資質・能力「コミュニケーション力」をどのようにみとめるのか



本研究の小学校英語の授業時間

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
標準	0	0	35	35	70	70
本校	70	70	70	70	70	70
(内モジュール学習)	(35)	(35)	(35)	(35)	(35)	(35)

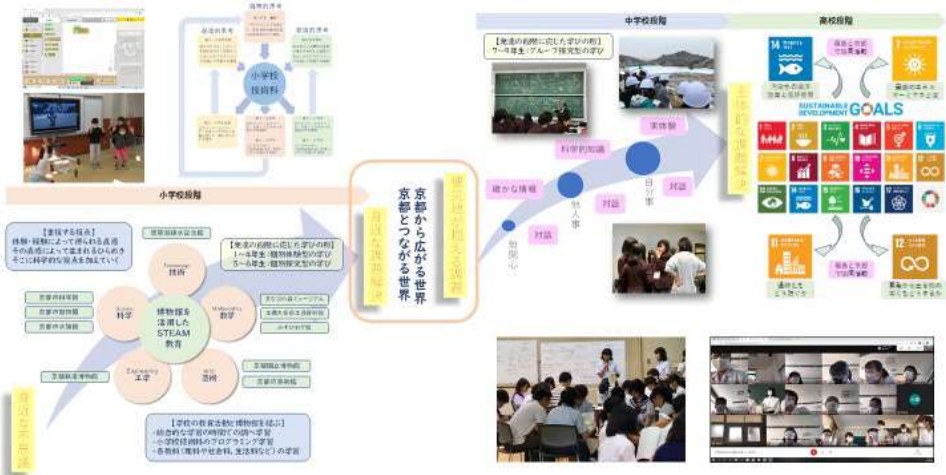
週2時間必要かどうか検証 → 英語科教員が2時間を担当することが不可能

モジュール学習の時間を活用して2時間を進める検証

各教科で身に付けた資質・能力を発揮する場としての、
「生活・総合的な学習の時間」

英語科カリキュラムマネジメントの実践例

義務教育9か年+高等学校3年間で育てる思考力・判断力・表現力～教科横断的な取組みのイメージ～

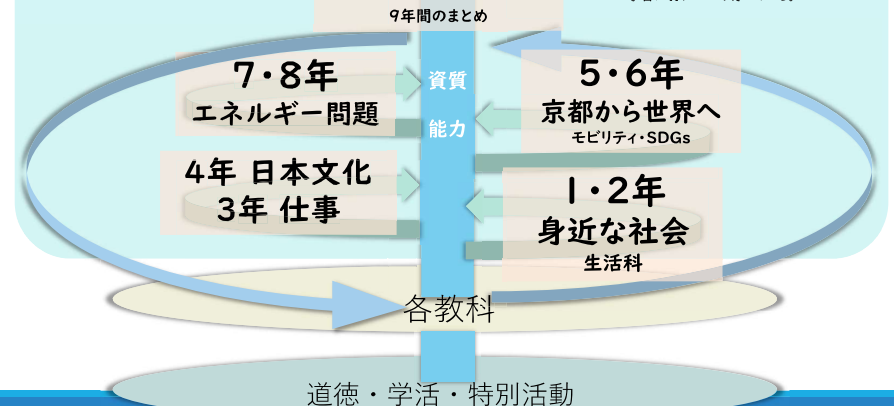


生活・総合的な学習の時間における教科横断的な学び

学校教育目標 「未来の社会に躍動する生徒の育成」

生活・総合的な学習の時間

*に組D組は各教科を合わせた指導と教科別の指導の総称として「せいかつ」を位置付ける
9年 個人探究 9年間のまとめ ※ 2022年度は、移行期と位置付け9年生の学習は別テーマで行っている。



ご清聴ありがとうございました

